

事例 2

1 研究テーマ

スピーチの指導を通して 4 技能をバランスよく育成する工夫

2 テーマ設定の意図

これまでコミュニケーション能力を総合的に育成するために「聞くこと」「話すこと」に重点が置かれていたが、新学習指導要領では「読むこと」「書くこと」にも同じように重点を置き、総合的に学習活動を充実させることとなった。中学生の課題として、「基本的な語彙や文構造を活用する力が十分付いていない」「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分付いていない」状況が見られる。そこで、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、語彙とあわせて繰り返し指導する中で定着させ、書くことに力を入れながら言語活動の充実を図りたいと考えた。

本研究では、「繰り返し」を意識しながら「聞くこと」「読むこと」に取り組みせるとともに、これまで身に付けてきた英語力を駆使し、聞いたものを書いたり、書いたものを読んだりするなど、各技能を関連付けながら継続的な指導を試みた。

3 調査研究の内容

次のような 4 技能を関連づける活動を取り入れた検証授業を行った。

(1) Last Sentence Dictation(LSD) 資料 1

これは、1 学年下の教科書を使用し、教科書本文の CD を流しておいて途中で止め、止まったところまでの部分で最後の文（ラスト・センテンス）を書き取らせる活動である。いつ止まるか分からないので、生徒は集中して全てのセンテンスを聞くようになる。さらにそのセンテンスを繰り返し声に出したり、声に出しながら書かせたりする活動を取り入れた。

(2) 音読活動の工夫

① Read & Look up

これは、教師の後について音読した後、教師の”Look up.”の指示で顔を上げ、読んだことと同じことをテキストを見ないで言う活動である。教科書などの英文を見てそのまま音読していくやり方は、目から音に行く単純な読み方である。『文字→目→音』という流れになる。これは文字を正しく発音できるようにするためには必要なことである。しかしこれを『文字→目→頭に一度プールする→音』とすると、「頭に一度プールする」ということがあるために、一つ一つの文が脳裏に深く刻み込まれることになる。一つ一つの英文を正確に頭にいれてからそれを言うことになるので、結果として英語の文の構造をしっかりと把握する習慣がつくとともに、生徒の頭の中に英語の文構造を内在化し、それを意識しなくても使える状態にさせるため、英文を発信するときに使える可能性が高まると言える。

② Look up & Say

これは、①の Read & Look up をさらに進めた活動である。教師の合図で生徒は 1 文を何度も黙読する。その後教師の”Look up.”の合図で顔を上げ、

今読んで覚えた英文をテキストを見ずに声に出して言わせる。さらにいくつかの英文については声に出していった後にその英文を書き取らせた。

(3) レッツ・コンポ！ 資料2

継続的に書かせるための工夫として、英文日記がよく使われている。しかし、生活の変化がないと「何時に起きて、何時に寝た」のような一日の生活パターンしか書けない。つまり、毎回同じトピックについて書くことになる。だから多くのトピックについて書かせたり、既習の様々な文型を使用させたりすることが目的であれば、単に「英文日記を自由に書きなさい」と指示を出しても、その目的を達成することはできない。そこで教師側からトピックを与えるようにした。そうすることでトピックの幅を広げることができると同時に、教師が英語でトピックを与えることで生徒にとって書くときのよいモデルにすることができる。さらに **slow learner** にとっては、語句を入れ替えたりすることで一文レベルでも課題が達成できる。教師側からの英文は疑問文で終わるようにし、生徒はそれに答える形で文章をスタートさせ取り組みやすくした。また、1週間に1回ワークシートを配り書かせた。



(4) レッツ・スピーク！

これは、1週間ごとに書かせるレッツ・コンポ！の英文をグループ内で発表させ、英語による質疑応答をさせる活動である。1週間に1回のペースで定期的に行った。

4 指導案

第3学年〇組 英語科学習指導案

(1) 教材

TOTAL ENGLISH 3 Lesson 5 Stevie Wonder –The Power of Music

(2) 教材について

ア 題材に関して

本課は、ミュージシャンとして成功を収め、更に様々な困難に苦しむ世界中の人々を救うための活動に積極的に取り組んでいるスティービー・ワンダーの伝記である。この課では関係代名詞を扱うが、会話の中では関係代名詞を使わずに短い文を重ねて言うことが多い。そのため本課の本文は会話形式ではなく、説明文（物語文）の形式になっている。現行の中学校学習指導要領では、関係代名詞は「理解の段階にとどめること」となっているので、関係代名詞で始まる節および文全体の意味を生徒が正確に理解できるようにするとともに、スティービー・ワンダーの生き方を知り、自分の生き方を考えさせるよう授業を展開していきたい。

イ 言語材料に関して

本課での新出言語材料は関係代名詞である。学習指導要領では、関係代名詞を「理解の段階にとどめること」としているが、文を理解する側としての困難点は、やはり後置修飾の問題であろう。関係代名詞で始まる節は、語数の多い長い修飾節を作り出してしまうので、文の理解が特に難しく感じられる。そこで段階に分けながら多くの例文を与え、生徒の理解力を高めていく工夫をした

い。また、「理解の段階にとどめる」ということは、きちんと音読できなくてもよいということにはならない。音読は正確な理解を反映するものであるから、繰り返し音読をさせることで理解を深めさせたい。

(3) 言語活動の充実に関して

学習指導要領改訂における教育内容の主な改善点の一つが「言語活動の充実」であるが、この「言語活動の充実」は単に表現活動だけを言っているのではない。中央教育審議会が学習指導要領改訂のポイントとして、「各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。」と述べている。外国語科において基礎的・基本的な知識・技能とは、発音・語彙・ストラクチャー・コミュニケーションの基礎としての文法などである。これらを生徒達に習得させるためのキーワードは「繰り返し」であろう。既習の学習内容を繰り返して指導し定着を図ることで学習の深まりを目指したい。そうして習得した知識・技能を自らの体験や考えなどと結びつけながら「話すこと」や「書くこと」を通じて発信すること、つまり「活用」していくことで英語力は身につけていく。われわれ教師は、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための指導を十分に行うとともに、それらを活用して意志の伝達を行う言語活動を重視することが大切である。習得して活用させる。活用して習得する。このスパイラルな展開が授業には求められている。以上のことから、日々の授業においては、英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする基礎的な言語活動をバランスよく計画的・系統的に行うことに配慮するとともに、聞いたものを書いたり、書いたものを読んだり話したりと、4技能を関連づけて指導するなどの授業改善を図った。

(4) 指導目標

- ・本文の内容を理解させ、自ら障害を持ちながらミュージシャンとして成功を収めているスティービー・ワンダーの生き方を知り、自分の生き方を考えさせる。
- ・関係代名詞で始まる節及び文全体の意味を正確に理解できるようにする。
- ・既習表現や新出表現を用いて、与えられたテーマについて自分の考えを書かせる。
- ・自分で書いたものをグループで発表させ、質疑応答を行わせる。

(5) 指導計画と評価規準（時間扱い）

時	学習活動・学習内容	評価規準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	● 関係代名詞 who の導入 ● LSD (Last Sentence Dictation)	・積極的に各活動に取り組んでいる。 <L><R>		・関係代名詞 who について理解している。<R>	・関係代名詞を使った英文の構造を理解している。<R>

2	● § A の内容把握 ・音読練習 ・英作文（レッツ・コンポ） ● LSD	・積極的に各活動に取り組んでいる。 <L><W>	・自分のことについて5文以上英文で書ける。 <W>	・教科書の内容をきちんと理解している。 <R>	・スティービー・ワンダーの生き方について理解している。 <L><R>
3	● 関係代名詞 which の導入 ・グループごとにスピーチ活動 ● LSD	・積極的に活動に取り組んでいる。 <L><S> ・スピーチを聞いて積極的に質問することができる。 <S><L>	・自分の書いた英文を用いて、自分の伝えたい内容を表現できる。 <S>	・関係代名詞 which について理解している。 <R>	・関係代名詞を使った文構造を理解している。 <R>
4	● § B の内容把握 ・音読練習 ● LSD	・積極的に活動に取り組んでいる。 <L><R>		・教科書の内容をきちんと理解している。 <R>	・スティービー・ワンダーの生き方について理解している。 <L><R>
5	● 関係代名詞 that の導入 ・英作文（レッツ・コンポ） ● LSD	・積極的に各活動に取り組んでいる。 <L><W>	・自分のことについて5文以上の英文で書ける。 <W>	・関係代名詞 that について理解している。 <R>	・関係代名詞を使った文の構造を理解している。 <R>
6	● § C の内容把握 ・音読練習 ・グループごとにスピーチ活動 ● LSD	・積極的に各活動に取り組んでいる。 <L><R><S> ・スピーチを聞いて積極的に質問することができる。 <S><L>	・自分の書いた英文を用いて、自分の伝えたい内容を表現できる。 <S>	・教科書の内容をきちんと理解している。 <R>	・スティービー・ワンダーの生き方について理解している。 <L><R>

7	● § D の内容把握 ・音読練習 ● LSD	・積極的に活動に取り組んでいる。 <L><R>		・教科書の内容をきちんと理解している。 <R>	・スティービー・ワンダーの生き方について理解している。 <L><R>
8	● まとめ ・音読テスト ・ワークブック ● LSD	・積極的に音読テストに臨もうとしている。 <R>			・関係代名詞を使った文構造を理解している。 <R>

(6) 本時のねらい

- ・本文の内容を理解し、スティービー・ワンダーに対する興味を高める。
- ・自分の書いた英文を用いて、グループ内でしっかりとスピーチを行う。
- ・友達のスピーチを聞いて、積極的に質問することができる。

(7) 教具

- ・CD
- ・ワークシート
- ・フラッシュカード

(8) 本時の展開

過程	学習活動・学習内容	指導上の留意点 ○評価 ☆重視した言語活動	備考
導入 10分	1 あいさつ 2 Last Sentence Dictation ① 音読練習 ② 問題に答える。 ③ 30秒間声に出していう。 ④ 1分間書く。 	・英語学習の雰囲気をつくる。 ☆集中して英文を聞く。 ・回収して点検し、多かった間違いなどを把握して、今後の授業でフィードバックする。 ・継続して行う。 ○積極的に活動に取り組んでいる。 <L><R> (関・意・態) [観察]	CD 解答用紙
展	3 教科書本文の内容把握 ① 教師の範読を聞き、意味のまとまりごとに本文にスラッシュを入れる。 ② Repeat 教師の後についてリピートする。 ③ Buzz Reading 自分のペースで音読練習をする。 ④ T-F quiz ⑤ Read & Look up 4 レッツ・スピーク！	☆内容を考えながら正しい発音で音読する。 ○教科書の内容を理解している。<R> (理解) ○自分の原稿をきちんと伝え	ワーク

レッツ・コンボ！ No.1

Class	Number	Name
-------	--------	------

Time flies like an arrow. Summer vacation has already ended. I went to Roseburg in the U.S. during this vacation. I made many foreign friends and had great memories with them. I really enjoyed staying there for 8 days. Please tell me about your summer vacation. What did you do?

[illegible]

「レッツ・コンポ！」の英文例

It's rainy today. If it's rainy on Sunday, I like to stay at my house. I sometimes read a book and sometimes watch videos. What do you like to do if it's rainy outside? Do you go outside or stay at your house?

There is a Japanese phrase "Shokuyoku-no aki". Some foods are delicious in fall. I like Sanma with rice and miso soup very much. Also I like grapes and pears. What food do you like to eat now?

I like singing songs. I sometimes go to *karaoke* with my friends or family. In a *karaoke* box, I can enjoy singing songs and listening to songs sung by others. I can really have a joyful time. I love music. Do you like music? Do you go to *karaoke*? What kind of songs do you like?

One of my hobbies is reading books. My favorite books are detective stories written by Uchida Yasuo. He lives in Karuizawa and writes many novels there. The hero of his novels is Mr. Asami. There are many fans of him in Japan. Do you like reading books? Do you have any favorite books?

Do you watch TV every day? I watch news on TV every day. I also like to watch TV dramas. One of my favorite TV dramas is "Dr. Koto." That's a very good drama. Oh, I like "Sho-ten" too. That's very interesting. Do you like to watch TV? What TV program do you like?

Yesterday I worked at school for long time and I went home very late. I ate dinner quickly and took a bath. Soon I went to bed because I was very tired. I know some students go to *Juku* and come back home very late. What do you usually do after dinner and what time do you go to bed?

When I was a child, I want to become a professional baseball player. So I practiced very hard. I want to become a teacher when I was a high school student. Now I am a teacher. My dream came true. What is your dream? What do you want to become in your future?

5 分析と考察

学習指導要領における「言語活動の充実」とは単に表現活動に特化したものではない。普段の授業の中では発音、語彙、ストラクチャー・コミュニケーションの基礎としての文法など基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し指導しながら、さらにそれらの知識・技能を活用する場を提供していくことが求められる。本研究授業では、単に聞く、読む、書く、話すといった活動で終わらず、自分で聞いたものを書いたり、自分で書いたものを読んだり話したりするなど、各技能を相互に関連付けながら活動させる工夫を試みた。自分で書いたものだから一生懸命話すし、話すからきちんとした英文を書きたいという欲求も生まれたようだ。どうしても受け身になりがちな授業の

中で、自ら書く、話すと言った積極性を引き出すためには4技能を駆使して取り組む活動を工夫する必要があると再確認することができた。4技能がバランスよく含まれた授業とは、単に4技能が独立して存在するのではなく、それらが関わり合って活動に取り込まれている授業であり、それこそが言語活動の充実といえるのではないだろうか。

6 成果と課題

ライティング活動の「レッツ・コンポ！」は週1回の活動で少しずつ慣れてくるにつれて、一人一人の書く量が増えてきた。さらに「レッツ・コンポ！」の英文を使った活動「レッツ・スピーク！」を始めたところ、正確な英文を書こうとする意識も高まったようである。今回は生徒の書いた作品に対してALTがコメントを書いて返却するという方法をとったが、スピーキングの活動につなげるためにはきちんと添削をして返却し、正しい英文を話させるようにする必要がある。ただあまり赤ペンを入れ過ぎると生徒の書こうとする意欲をそぐことにもなりかねないので、そのあたりのバランスは今後の課題である。「レッツ・スピーク！」では生徒のスピーチに対して簡単なコメントを言ったり、感想を言ったりすることができるようなレベルまで持っていきたい。そのための下準備として感想の言い方や、コメントの仕方などの練習を授業に取り入れていくことも必要である。

英語学習はスポーツと似ている。学習初期の段階では基礎的な知識・技能の習得に多くの時間を費やすことになる。しかし知識・技能が蓄積されていくと、それを生徒達は活用したくなってくるものである。その生徒達の欲求を我々教師がきちんと受け止め、タイミングよく活用場面を提供していくことが大切である。その際にただ単に話したり、書いたりするだけでなく、4技能を関連付けながら取り組む活動を工夫し、言語活動の充実を図りたい。